

平成 29 年度 学校 自己 評価 表 (中間評価)

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成 (1)高い志と自ら学ぶ力 (2)確かな学力と公共の精神 (3)自らを律する力と他を思いやる心 (4)率先して行う勇気と協力して成し遂げる知恵 (5)健やかな体と感動する心</p>	<p>今年度の重点目標</p>	<p>1 学力の向上 (1)授業規律と学習習慣の確立 (2)力をつける授業、生徒が主体的に取り組む授業の工夫 (3)「地域探究の時間」の充実 2 自主性と自律心の育成 (1)基本的学習習慣の確立 (2)生徒会活動、学校行事への積極的参加 (3)部活動の充実 3 コース制の充実とキャリア教育の充実 (1)コース制の充実 (2)キャリア教育の充実</p>
---------------------------	--	-----------------	--

評価基準 A:十分達成 (100%) B:概ね達成 (80%程度) C:変化の兆し (60%程度) D:まだ不十分 (40%程度) E:目標・方策の見直し (30%以下)

年 度 当 初		評 価 結 果					
評価項目	具体項目	目指す姿	現状	具体的方策	経過・達成状況	評価	改善方策
学力の向上	授業規律と学習習慣の確立	○授業規律が確立されており、予習や復習、課題に取り組むなど学習習慣が身につけている。 ○どの生徒も授業を大切に、真剣に授業に取り組んでいる。 ＜指標＞アンケート「授業に集中して取り組んでいる」の評価AまたはBが80%以上。	○おおむね授業規律は良いが、始業時間に遅れる生徒や授業の用意が不十分な生徒がいる。 ○数は少ないが、授業の予習や復習をしていない生徒や、授業に集中しきれていない生徒が見受けられる。	○教師が授業開始時間を必ず守り、生徒が授業に遅れないよう指導を徹底する。教材などの持ち物についても確認する。 ○予習・復習の具体的な内容をプリント等で指示し、提出させ確認する。また、気になる生徒については面談や関係職員と連携し対処する。 ○生徒が授業に集中できる授業作りを行う。	○授業規律については多くの教員が早々に教室に向くなど概ね指導ができています。 ○予習復習の指導や面談指導は、時期的なものもあるがかなりできています。 ○公開授業を行い授業内容を検討するとともに、生徒が主体的に学習に取り組む授業研修も予定している。	B	○授業を大切にすることの重要性を授業や学年集会等を通じて再三生徒に話して聞かせる。 ○研修会で得た手法などを教科会等で共有し、積極的に取り入れる。
	力をつける授業、生徒が主体的に取り組む授業の工夫	○教科の基礎基本が定着しており、学習効果が高い授業により、学力を高めている。 ○授業が工夫されており主体的に学習に取り組んでいるので、学ぶ力が高い。 ＜指標＞アンケート「授業に満足している」、「自分で勉強を進めようとしている」の評価AまたはBが80%以上。	○生徒の基礎力に差があり、その定着に努力している。 ○授業の工夫がなされ、生徒の学力が十分に定着できるよう努力をしている。	○授業中の発問や内容を絶えず検証し、授業力の向上に繋げていく。 ○授業と並行して基礎力を高めるために、生徒一人ひとりの学力を見極め、個別の課題を与えていく。 ○個別指導等により、弱点の強化を行い、その上で、授業内容を高めていく。また、それらの内容については各教科会や校内の委員会で検証していく。	○授業力の向上については、授業評価アンケートを実施し検証している。 ○調査と調査の間の課題の課し方については、全教科に渡って検討の余地がある。 ○夏休み中の成績不振者指名課外はかなり徹底して実施できた。	B	○定期調査後に成績が出た段階で、成績不振者の面談を行い、取り組みの改善を促す。また、冬休みの成績不振者課外においても個別に指導する。 ○冬休みや校外模試の前に成績上位者に向けた課題等の個別指導を行う。
	「地域探究の時間」の充実	○2年生を中心に全校生徒が「地域探究の時間」に取り組み、地域に関する関心が高まっている。 ○「地域創造ハイスクールサミット」を開催し、多くの学校が参加・観覧し、研究協議が充実する。 ○探究力、分析力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高めている。 ＜指標＞地域創造ハイスクール・サミットへの参加校・観覧校、観覧者がこれまでより増え、提言も深まり、アンケートで研究協議の充実が評価されている。また、「地域探究の時間」の研究発表での発表内容、プレゼンテーションなどの質が高まっている。	○1年次での「地域探究の時間」オリエンテーション授業等を通じて、探究学習の手法や協同学習の経験を積んでいる。 ○生徒は、地震の影響で「地域創造ハイスクールサミット」を経験しておらず、イメージが出来ていない可能性がある。 ○今年度より「地域探究の時間」で身につけたい力(TMT)を明確にし、評価基準表(ルーブリック)で評価することになっている。	○地域の講師の方々と連携し、フィールドワーク等の一次データを重要視した教育活動を促す。また、学校と地域がお互いの強みを活かした教育活動となるよう展開する。 ○プレゼンテーションまでの流れを意識し、計画的な教育活動を行う。また、サミット実行委員会や生徒実行委員会を早期に立ち上げる。これまでの反省を活かし、生徒討論会や生徒交流会を充実させる。 ○TMT評価基準表を用いたレポートを活用し、生徒にも目標とする姿を示しながら「地域探究の時間」を展開する。また、教員・講師共に、この時間における重点項目を意識した教育活動を行う。	○地域の講師との連携を密に行い、フィールドワーク学習の回数を重ねることに、学びに主体性が出てきた。毎時間のレポートから、北栄町に対する関心が高まっている様子が見られる。 ○「地域創造ハイスクールサミット」実行委員会を構想する段階であり、早急に実行委員会を立ち上げる予定である。 ○毎時間のルーブリック式レポートから、各能力育成を意識した活動が行われ、少しずつ各能力を高めている様子が見られる。	○今後は発表に向けグループ活動が効果的に機能するよう協働学習を促す指導、環境整備を行う。 ○地域の講師との連携を継続させ、より一層北栄町への興味関心を引き出す。 ○実行委員会において具体的な計画を立て漏れのないように準備をしていく。	B
自主性と自律心の育成	基本的学習習慣の確立	○生徒の基本的学習習慣が確立されており、マナーやモラルを守って落ち着いて生活できている。 ＜指標＞問題行動発生件数の減少。服装指導等指導回数の減少、遅刻者数の減少。	○昨年度は、服装の指導や問題行動に対する指導を行う場面もあった。今年度は基本的学習習慣の確立・公共マナーの徹底に向けて学校を挙げて取り組もうとしている。	・5Sの徹底。(整理、整頓、清掃、清潔、躰) ○遅刻・服装・不要物など各指導票を活用する。 ○教室や共有の場所での整理整頓を徹底する。 ○SHRや学年集会などでタイムリーな指導を行う。	○校内規定の遵守についてはおおむね良好であるが一部の生徒は認識が甘く、遅刻やスマホの使用について指導を受ける場面があった。 ○5Sの励行により、教室整備もやや改善傾向にあるが、クラスや場所によって差がある。 ○公共マナーの指導も行っているが、地域からの苦情をうけることもある。	C	校内規定をあらためて指導することで、徹底させる。そのことにより、5S等の必要性、ルール、マナーを守ることを理解し、物事に対する考えが改善され、基本的学習習慣の確立に近づけるようにする。
	生徒会活動、学校行事への積極的参加	○どの生徒も生徒会活動に主体的に参加し、成功体験を通して達成感を高め、人間力を向上させている。 ○どの生徒も学校行事に積極的にに関わり、達成感を得ることで、他者との協調性や思いやりを身に付け、学校生活を有意義に過ごすとともに、人間力の向上が見られる。 ＜指標＞アンケート「学校行事に積極的に参加している」で評価AまたはBが80%。また、アンケート「本校の学校行事は充実している」の評価AまたはBが85%以上。	○生徒会執行部が「北栄町高校生議会」に参加するなど、応援団リーダー・各委員会活動も含め、主体的に参加し、充実した活動に取り組む生徒が徐々に増えている。 ○育英祭・球技大会では生徒会執行部・実行委員が中心となり、全校生徒、特に下級生をよく指導し、運営することが出来ている。	○生徒会執行部が生活委員会・環境委員会などと連携し、自治活動を活性化させる。 ○生徒会執行部・育英祭実行委員から企画運営に関わる説明を丁寧に行い、各生徒が自分の務めを自覚し行動できるようにする。	○前期生徒会執行部は、執行部会での生徒会顧問を交えた話し合いなどを通じ、生徒総会の運営や環境委員会の学校周辺の清掃活動への参加など主体的に活動することができた。 ○育英祭実行委員は人数も少ない中、部門担当職員の手助けもあり、全校をよく指導し育英祭全体を成功に導くことができた。	B	○後期生徒会では、前期ではできなかった生活委員との連携や生徒総会・球技大会の運営等を、校内の各委員会や部活動と協力し、主体的に行う。 ○年度内に来年度の育英祭の実行委員を募集し、本年度の各部門やクラス、部門担当職員の反省を元として来年度の取り組みについて計画を仕上げていく。
	部活動の充実	○全校生徒が部活動に積極的に参加し、活発に活動している。昨年度は部活動加入率が92%。 ・県大会優勝は団体が(4)・個人が(16) ・全国大会入賞は団体が(4)・個人が(8)	○多くの生徒が部活動に参加し、活発に活動している。昨年度は部活動加入率が92%。 ・県大会優勝は団体が(4)・個人が(16) ・全国大会入賞は団体が(4)・個人が(8)	○定期的な部活動参加状況をチェックし、未加入者への声かけをする。(総体明け・夏休み明け・新人戦明け) ○生徒会執行部・応援団を中心に各部の活動を応援するとともに、結果についても広く全校に広報していく。 ○県内外の学校やその他機関との交流により、指導法を学ぶなどし、競技力や技術力の向上を図る。	○部活の加入率は、5月の段階では1年が100%、2年が90%、3年が92%であり、多くの生徒が部活動に参加している。 ○応援団リーダーは、4月の応援歌練習を始め、壮行会・高校野球の応援など全校をよくまとめ活動することができた。 ○陸上・水球・バレー・野球・サッカーなど、多くの部活動が県内外の学校や機関と交流し、競技力や技術力の向上を図ることができた。	○部活の加入については、学支支援システムを活用して引き続きリアルタイムで確認を行い、積極的な部活動への参加を促す。	A
コース制の充実とキャリア教育の充実	コース制の充実	○体育コースは、トップアスリートを目指して日々鍛錬し、意識レベルが高く、部活動はもとより学校生活において模範となる生徒を育成している。 ○体育コースは高い競技力と実績を活かして、卒業後も次のステージでも活躍するために上級学校等へ進学する生徒を育成している。 ○普通コースは、上級学校への進学等、進路実現を果たすための学力と人間力をしっかり身に付けている生徒を育成している。 ＜指標＞学校生活や行事の中で、リーダーシップを発揮し、企画運営なども自主的に行なう生徒が増えている。また、国公立大学10%以上、私立大学20%以上、就職率100%の進路実現を達成する。	○体育コースの生徒が、部活動のみならず、学校生活においてもリーダー的な役割を果たしつつある。 ○体育コースの上級学校進学者は、例年半数程あるが、そのうち競技を継続する生徒は若干名である。 ○国公立大学現役合格者が昨年度末で前年度比2.5倍と特進クラス初年度としていいスタートを切ったが、さらに学校全体の取組みになるよう改善が必要である。 ○進路面談等きめ細かい指導などで安易な進路決定をしない雰囲気も生まれ、普通コースの充実も進みつつある。	○体育コース集会を開き、体育コースの一員として、自覚ある行動及び習慣を身に付けさせる。 ○体育コースの取組である「異年齢交流」や「各種実習」において人間性や協調性を養い、競技力向上にも繋げている。 ○高校で競技を終えることのないよう、更なる可能性を見出す指導と、将来、指導者となる人材の育成をする。 ○特進クラスの実質的に取組み、指導が学校全体の取組みとなるよう改善を進める。特に、教材、進度、面談などきめ細かい指導の充実を図り魅力あるクラスにする。 ○選択科目の見直しを図り、進路希望のニーズに応えられるようにする。	○4月当初の体育コースオリエンテーションで、体育コースの一員としての自覚を高めたスタートできた。 ○各種交流や実習を通じて、人間性や協調性は徐々に養われてきており、これらの経験が生かされ、競技力向上や将来の進路にも繋がりがつつある。 ○特進クラスの実質化、特徴化の取り組みは色々なところで話題にも上がっており、着々と進められている。 ○選択科目等については検討ワーキンググループや各教科会、教育課程委員会で検討が進行中であり、30年度については一部改善が図られた。	B	○後期も集会を開き、体育コースが部活動や学校生活において模範となる生徒となるよう、リーダーとしての意識をさらに高めるための指導を行う。 ○今後は計画・立案などを含めた準備が生徒主体に活動できるよう指導していく。
	キャリア教育の充実	○体系的なキャリア教育が進められており、低学年から進路を考えることが出来る。 ＜指標＞アンケート「明確な進路目標を持っている」の評価AまたはBが80%以上	○アンケート結果は概ね指標を満たしている。しかし実態として、目標を低く設定する生徒や目標達成へのアプローチがイメージでせず、具体的な行動に移せない生徒も見受けられる。	○生徒の視野を拡げ、早期に具体的な将来設計を描かせるため、それぞれの時期における指導テーマを明確にし、それに沿って組織的な進路指導を行う。 ○適切な目標設定をさせるため、生徒の志望や想いを引き出しつつ、具体的な目標モデルを提示するような進路面談を行う。	○1年次は文理、履修科目選択のサポート、2年次は高い進路志望と学習意欲の向上、3年次は進路目標と社会との繋がりを学ぶことを目的として、講演、見学等を行い、将来を考えるための刺激を与えることができた。 ○模試結果の生徒へフィードバックにおいて、ポイントを絞るなど職員の意識共有を図った。	C	○3年次については進路実現を、2年次については志望校の考察、1年次は進路目標の設定に向けて、進路志望調査やST、進路面談を折り返していき。 ○2学期も継続し、面談指導を通して模試結果のフィードバックを行いながら、明確な志望、また明確な学力目標をもたせていく。